

## 《編集後記》

発行が遅れて申し訳ありません。とくに早くから原稿を頂いていた方には、ご迷惑をおかけしました。編集担当者として最大限の努力をしたつもりですが、このような結果になり残念です。

我々の悩みは、原稿が集まらないこと、そして、走り書き同様の状態で送られてくる原稿が多いことに起因します。出来てしまえば各々がそれなりの顔をしています。ここにたどりつくまでには多大な労力が費やされていることを知っておいてほしいと思います。

原稿を催促して聞いて聞かされるのが「書くネタがない」という台詞。それも本来は活動の中心となるべき、蝶屋さんの口から発せられることが多いのが残念です。今こそ、会の主旨でもある「但馬地方の昆虫相を明らかにする」という原点に戻り、沈滞ムードを打破してほしいものです。今号のクモのまとめなどは、よいお手本になりそうです。

キリシマミドリシジミやツヤハダクワガタの記事は、データというものがいかに大切かを再認識させてくれます。一般人や高校生は仕方ないにしても、虫屋さんのなかにもデータをいい加減に扱う人が見られます。自然界の語りべである虫とつき合い、それらを記録に残すということは、科学分野の一端を担う重要な作業なのです。この点を忘れず、IRATSUMEに記録を発表して行ってください。

会を盛り上げ維持していくのは、会員ひとりひとりの力です。そして、会のもうひとつの主旨である親睦をはかりながら、虫とつき合っていきましょう。今シーズンこそ、あなたに期待したいと思います。

IRATSUME No.13, 14

1990年5月20日発行

発行者：但馬むしの会

編集者：谷角素彦・石田達也

連絡：☎669-68 兵庫県美方郡温泉町

黒井和之方